

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	2001
Jtitle	哲學 No.106 (2001. 3) ,p.273- 273
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000106-0275

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『哲学』の新しい試みとして、特集号を編集するという事になった。「変容する社会と家族」というテーマで、家族に直接的あるいは間接的に関わる論考を掲載した。論考相互の調整はせず、まさに多様な接近を、そのまま提示することにした。まとまりがないという感想を持たれるかも知れないが、それが家族社会学（あるいは社会学）の現状であると受け取っていただきたい。支配的なパラダイムが存在するわけではない。さまざまな方法の並立が、対抗的かつ相補的な関係を形作っていくことが重要であると考えている。その素材の提供は為し得てい

ると思う。

執筆者は、すべて過去にあるいは現在、慶應義塾大学大学院社会学研究科の社会学専攻で研鑽を積んだ（積んでいる）新進の研究者である。すでに社会学や家族社会学などで活躍している研究者も多い。執筆期間に十分な余裕があるとはいえない状況で、予定していた全員が原稿を提出してくれたことに编者として感謝したい。また、山本和郎名誉教授の定年退職記念シンポジウムの記録をまとめられた宮坂敬造文学部教授にもお礼を申し上げる。（渡辺秀樹）